

謹啓 秋涼の候、皆様におかれましてはますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、本日はご多忙中にもかかわらず、東部地区溶接技術検定委員会の七十五周年記念式典にご臨席賜り、誠にありがとうございました。

1949年に神奈川県横須賀市浦賀橋梁(株)において、日本溶接協会の第15部会(試験・検査担当)が最初の溶接技量試験を実施してから75年を経過し、溶接技能者検定試験も毎年全国で約10万人が受験する試験制度に成長いたしました。

東部地区溶接技術検定委員会は、前身である関東溶接工検定委員会が1950年に関西、東海および西部の溶接工検定委員会と同時に設立され、その後、東部第一地区・第二地区検定委員会の並立(1957年～1981年)、東部地区検定委員会への統合(1982年～)と変遷してまいりました。現在は全国9地区の中の一地区として全国共通の試験方法と評価基準に則って検定・認証業務を進めると共に、関東甲信越1都9県の11の指定機関のご協力のもと年間約3万人の受験者を受け持ち、350回以上の試験を実施しております。今日まで継続して滞りなく検定試験が実施できるのは、創立から携わられた偉大な諸先輩方と現在も検定業務に関わっている皆様のご尽力の賜物と心から感謝申し上げます。

これからも、関係各位の皆様のご協力を得て、委員及び職員が一丸となり公平公正な検定試験の実施と溶接技術の発展に努力してまいり所存でございます。なにとぞ倍旧のご愛顧ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様のご健康とますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

まずは略式ながら、書面をもって御礼申し上げます。

敬白

令和六年十月十八日

一般社団法人 日本溶接協会

東部地区 溶接技術検定委員会

委員長 金子裕良